



接日
200
巻



御飾書

相阿弥記

○西の田葉湯乃るあは一同は棚沙重病
 水河田の一同は清子の雲法山本重理
 やうらまをやうらまのこいよ
 やうらまのけんさうやうらまのけんさう
 横山水人形は納戸重棚まの重物あは
 在じまの重の山重水重物あは同重八
 系乃る乾角の重棚のまは山重重
 本次のまは極角色まの重の物ま
 西の面耕他の名良の角のつ棚重物



小川山所と因山祝文書曰は年鑑曰か
 西の六る山東のるに基盤得基盤と
 向書林在在の北なる和書人形に
 重物の。因西とるめては茶湯あり電
 派も指水龍胡洞のくれ茶統の物
 以建書の本は茶壺文琳はうぐ茶統
 礎初と外茶統の壺つけおろて入る
 同西の山は同湯敷のと玉洞極のよ水に
 重物の。書のは産所の良は画帖表の山

同る東向より一の山書院あり。昔は解體
 也花瓶胡洞花とらたた一とる。軌南
 には茶棚とあり茶給の横画二幅とあり
 棚のとゆは文書とあり山抄物一帖とあり
 玉外漢書とあり山産茶よ通紙押とあり
 御書院の服よ官女二幅とあり茶壺とあり
 向同おるの山極火のる火のるをとる
 山持佛堂の良山指書表は園がよ画壺
 物物物とありの水指内平桶指投色細

高き正堆為方より蓋茶葉茶扱より向
 下の重に合致

一三具足みつぐさくの香合かうがひより香をまきし汁入

一茶湯ちやとうの香合かうがひより香をまきし汁入

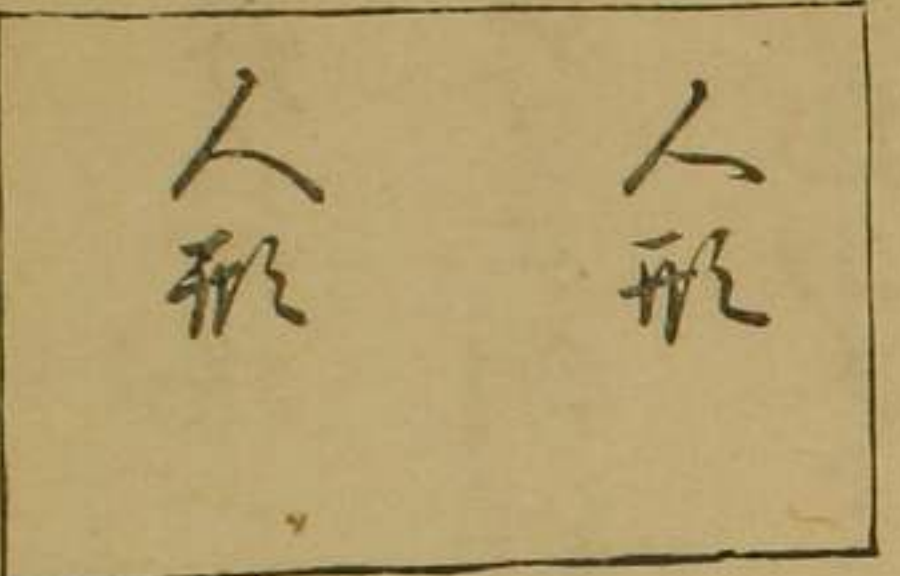
一中央ちゆうざう卓しやく縁えんより香をまきし汁入

一茶瓶ちやびんの香合かうがひより香をまきし汁入

一三具足みつぐさくの胡洞こどうより香をまきし汁入

一茶湯ちやとうの茶瓶ちやびんより香をまきし汁入

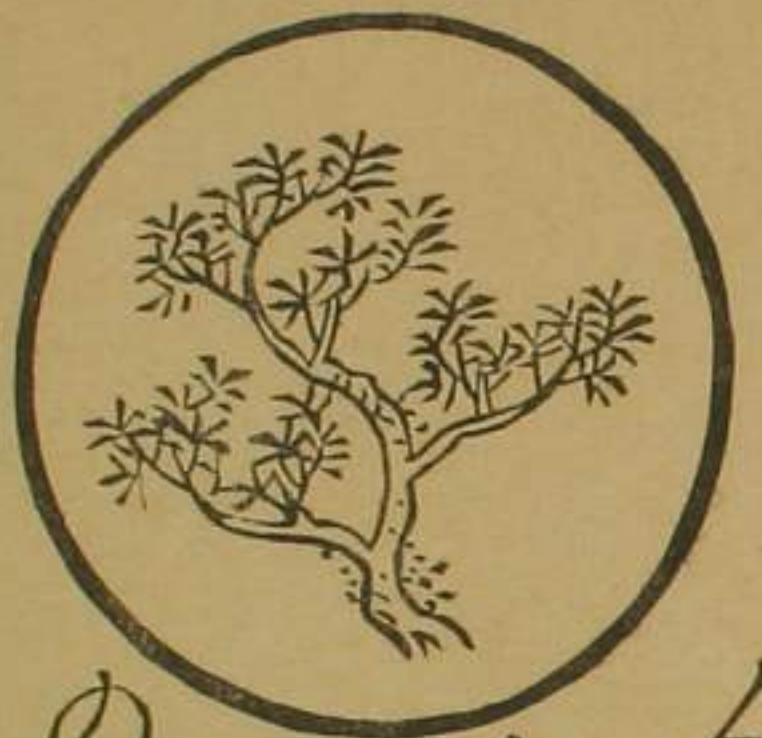
一茶湯ちやとうの茶瓶ちやびんより香をまきし汁入



勝かちの時とき人瓶にんびんじり



軸^がの物のまゝふま何^がかやうの法極^の
 方^を極^のにせぬのよ^うに極^の一^をき^の
 かん物^と何^とやう^にを^はり

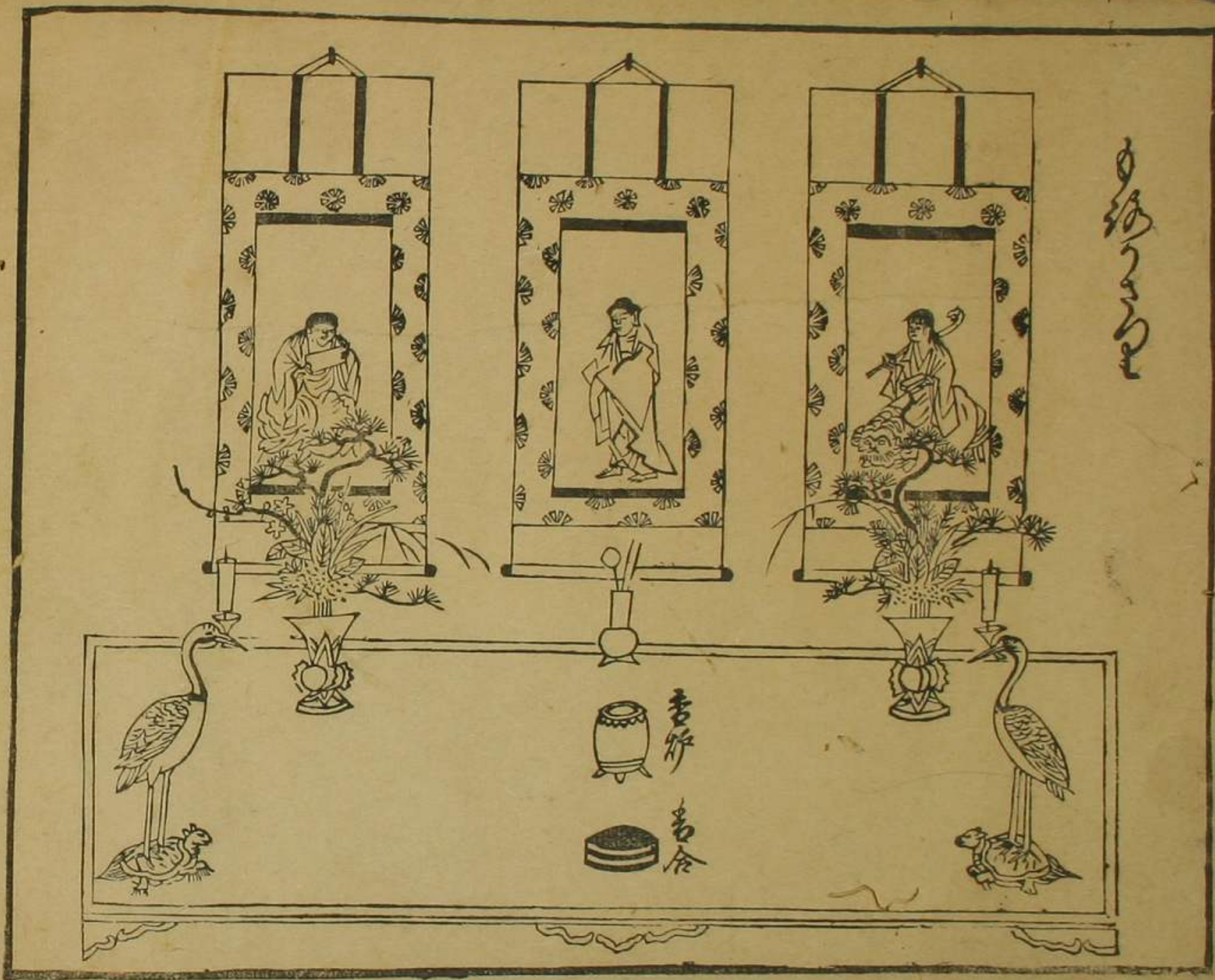


かん物^と何^と花^のかど
 のか^はじ^らひ^は一^をき
 と^まか^ん飛^たる^もと^は
 の^きと^{かん}の^ま何^と一^を
 かん^は何^と何^と



かん^は何^と一^をき^の
 かん^は何^と何^と一^を
 かん^は何^と何^と一^を

御座り



よれば縁乃るあふふくふらうりゆりゆら

^{とまり} 御座の何れも縁せつりふくあはれあり

けりよ一對衣籠揃よどろろ

一棚重肘衣籠ありとも兼籠よあはれ

一書院よ喚鐘ありとらぬあり

一膳面季よあはれあり

一二幅一對の何れに衣籠揃ありとらぬあり

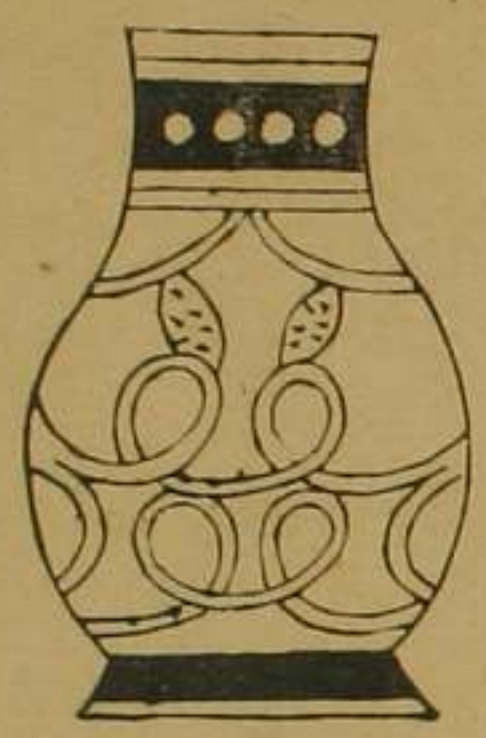
繪のあはれもあはれ置てとらぬ何れに衣籠

あはれあり

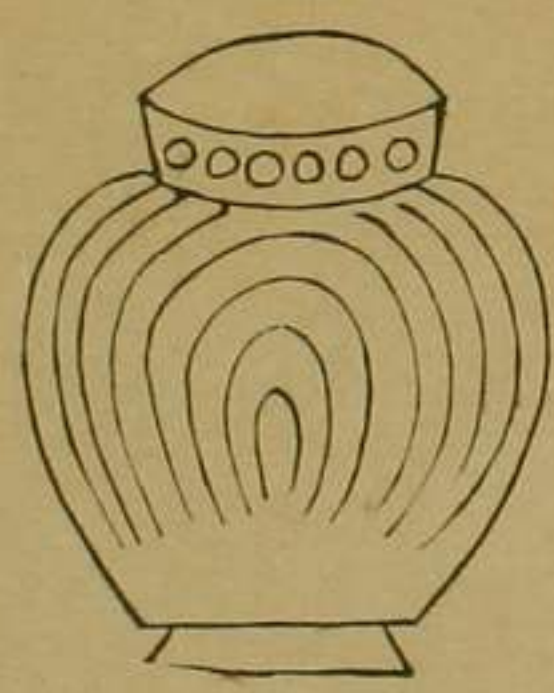
一繪の如く次第中先本を治した治を右
 幅一對の何たるを物く二三寸と
 あり也

喚種と書院は物くその物も長物く
 わりの同るよし書くとも也初層の天より
 書院よありあり又床より書く
 中央卓の三具品のあり置也

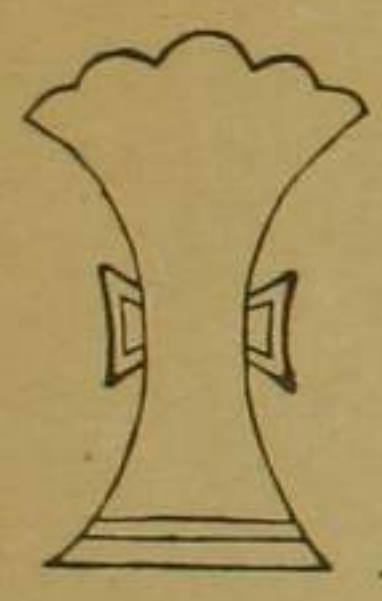
結竜花瓶



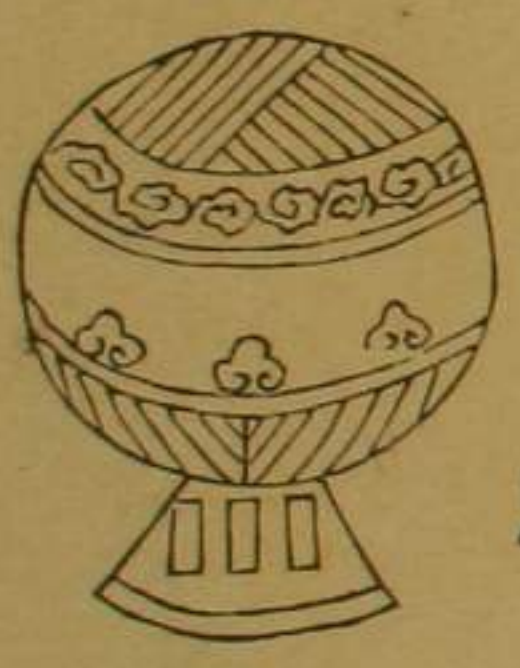
播茶



銀杏の花瓶也



火屋香炉



丸花瓶





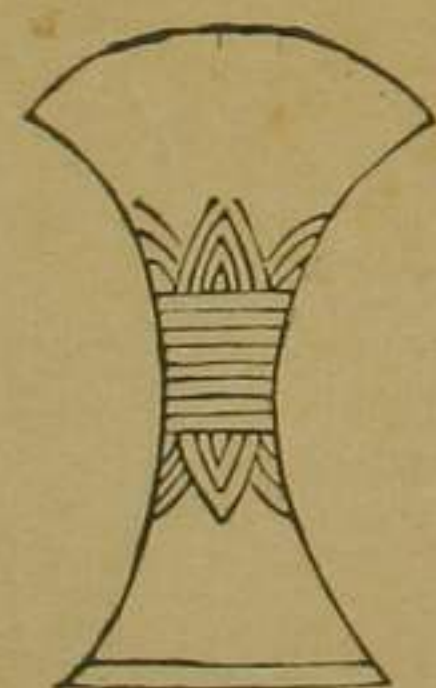
壺花瓶



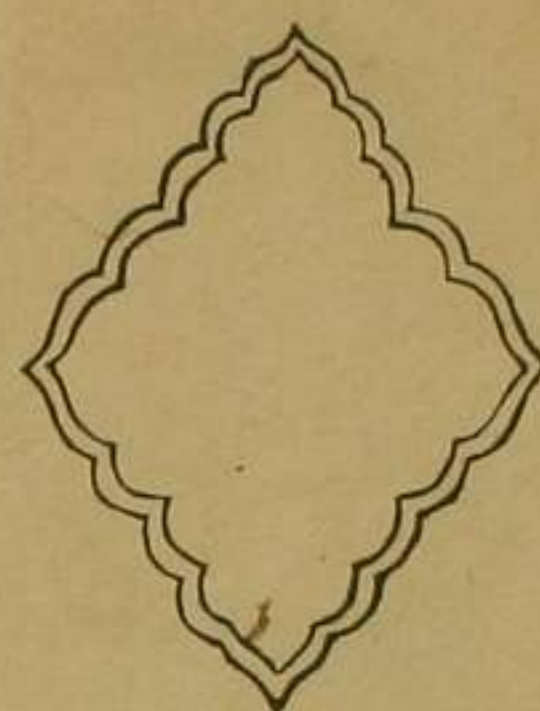
懷桶



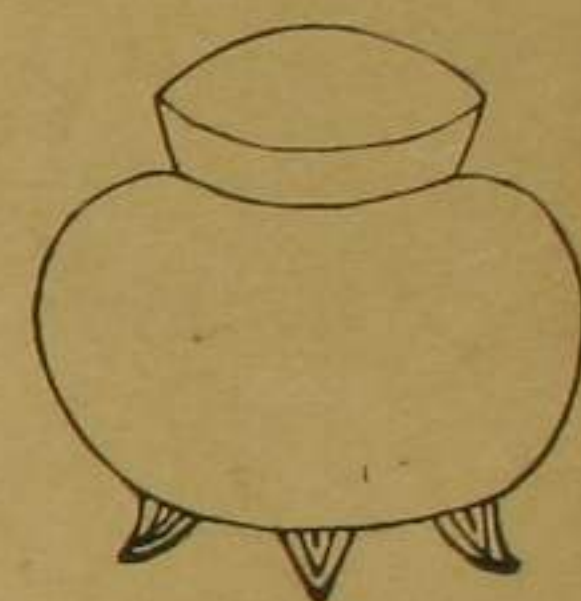
龜紋花瓶



土拍子口壺



菱香合



耐盆



耳口花瓶

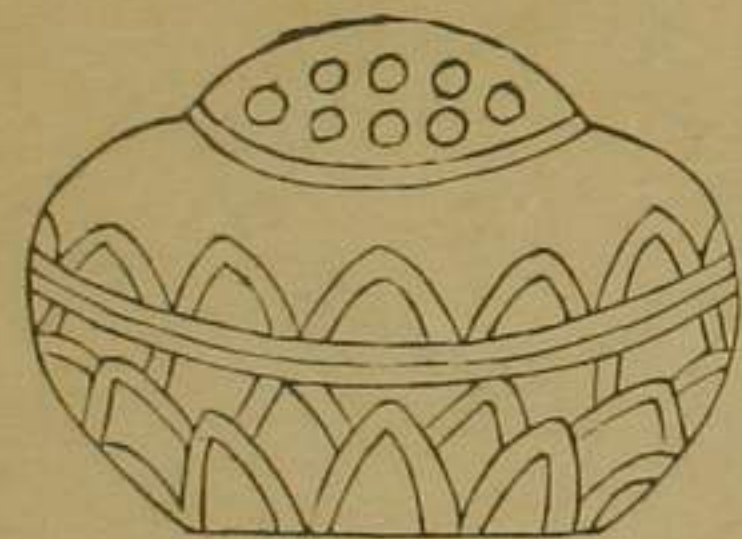


二重香爐

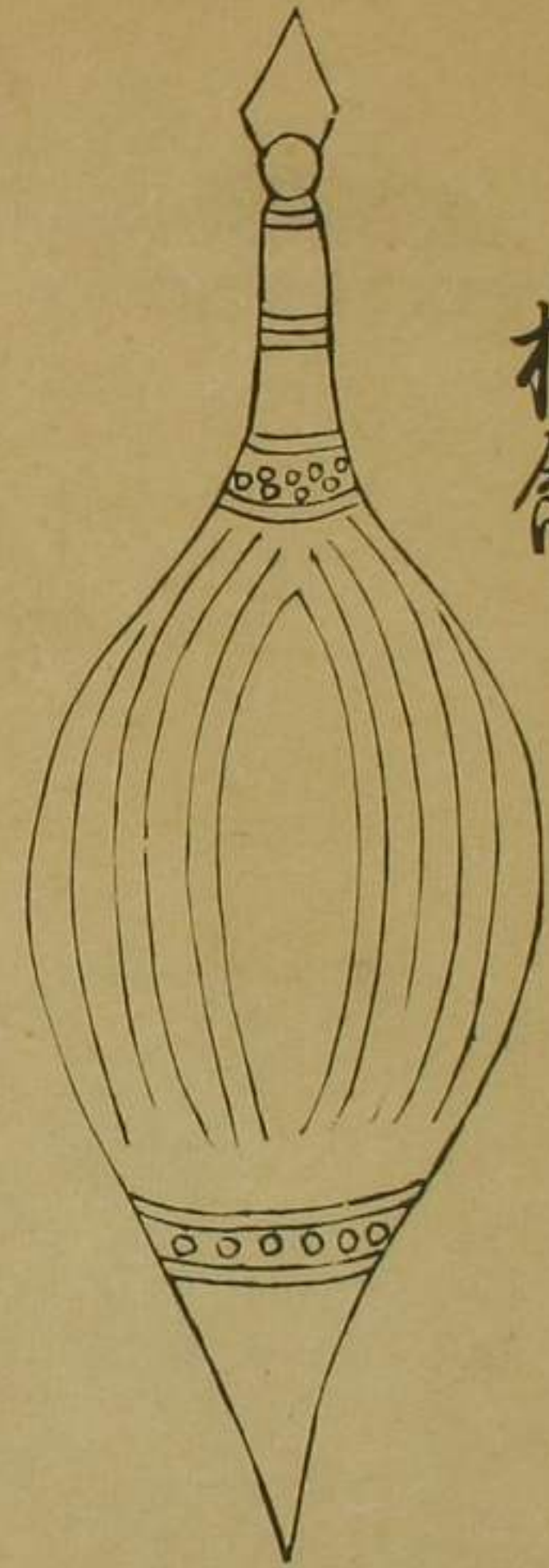


半桶

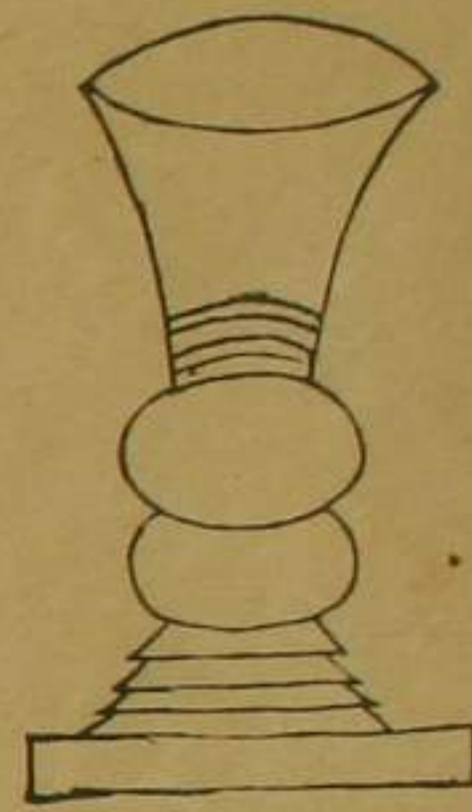
くわんぼく



帰花茶盆



くわんぼく
櫃筋

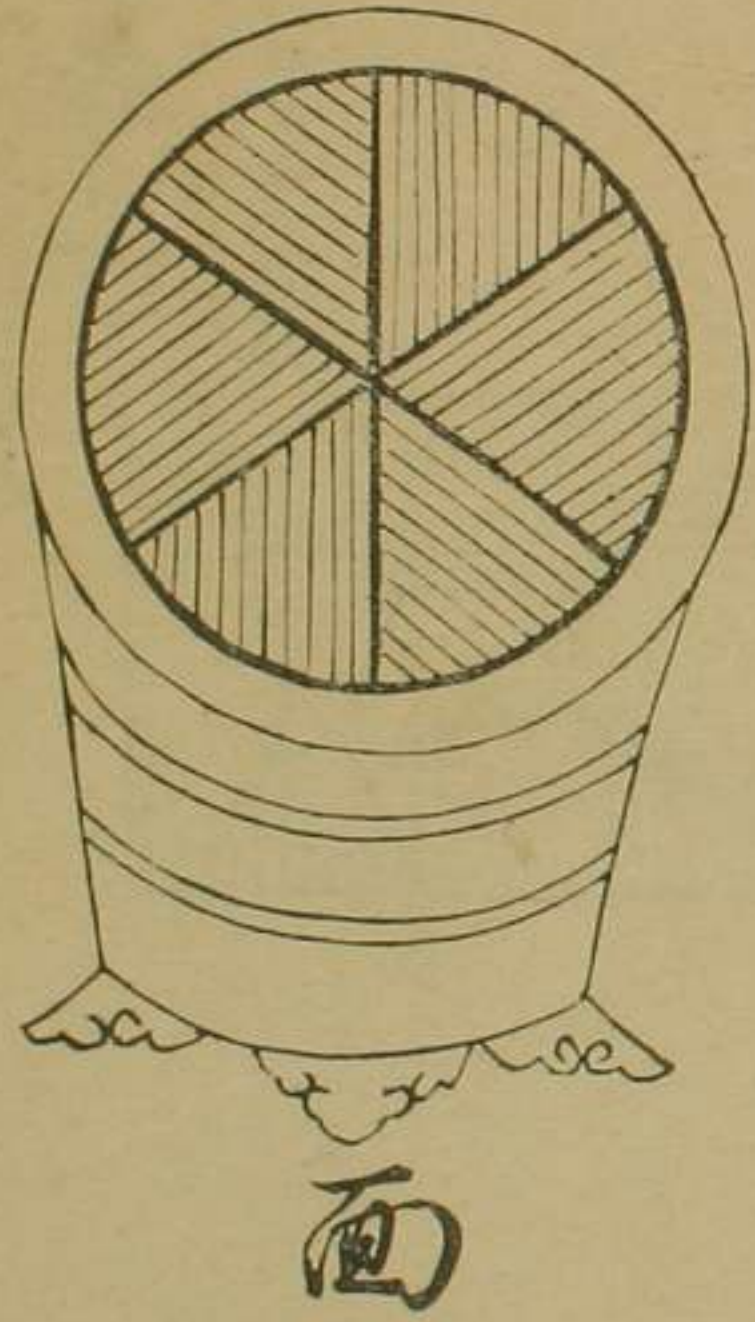


土拍子口三重彌花瓶



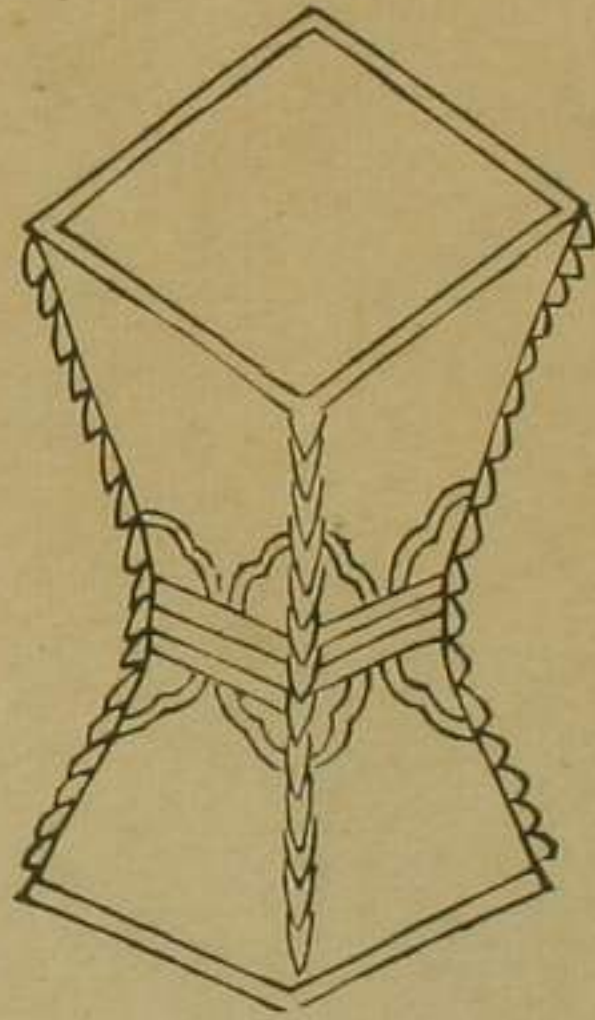
半桶

いりもの事種ともなるもの何れ種ると
 八重ヶくじ

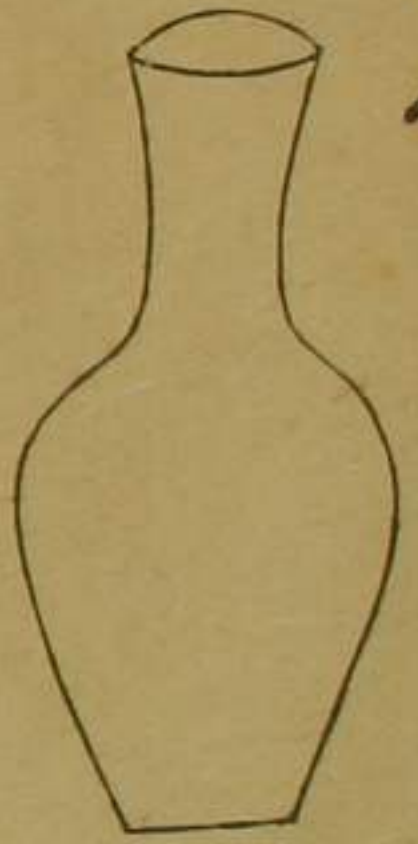


面

古拍子の四方口



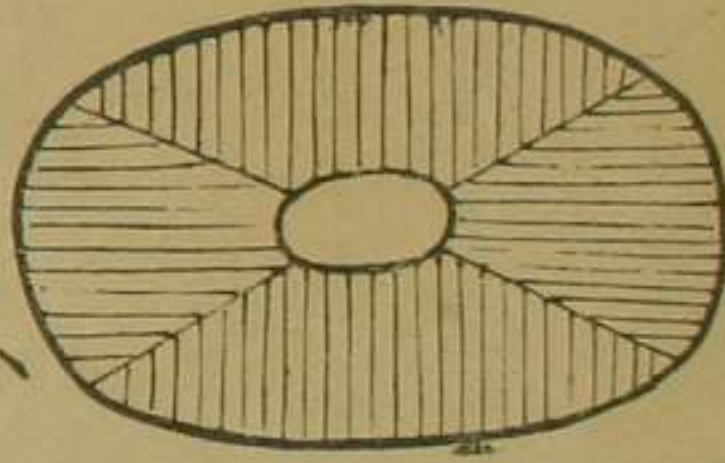
提花瓶



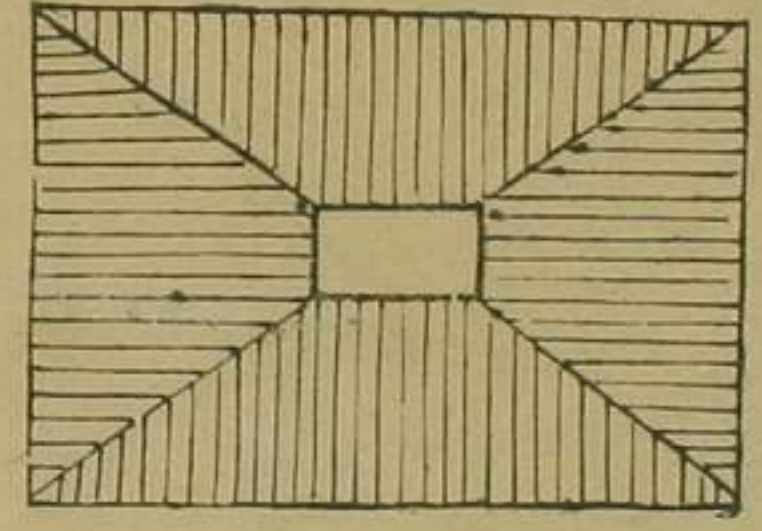
セリノ
 喜磁物

版持りの香炉はめ出の四方小座とあそび

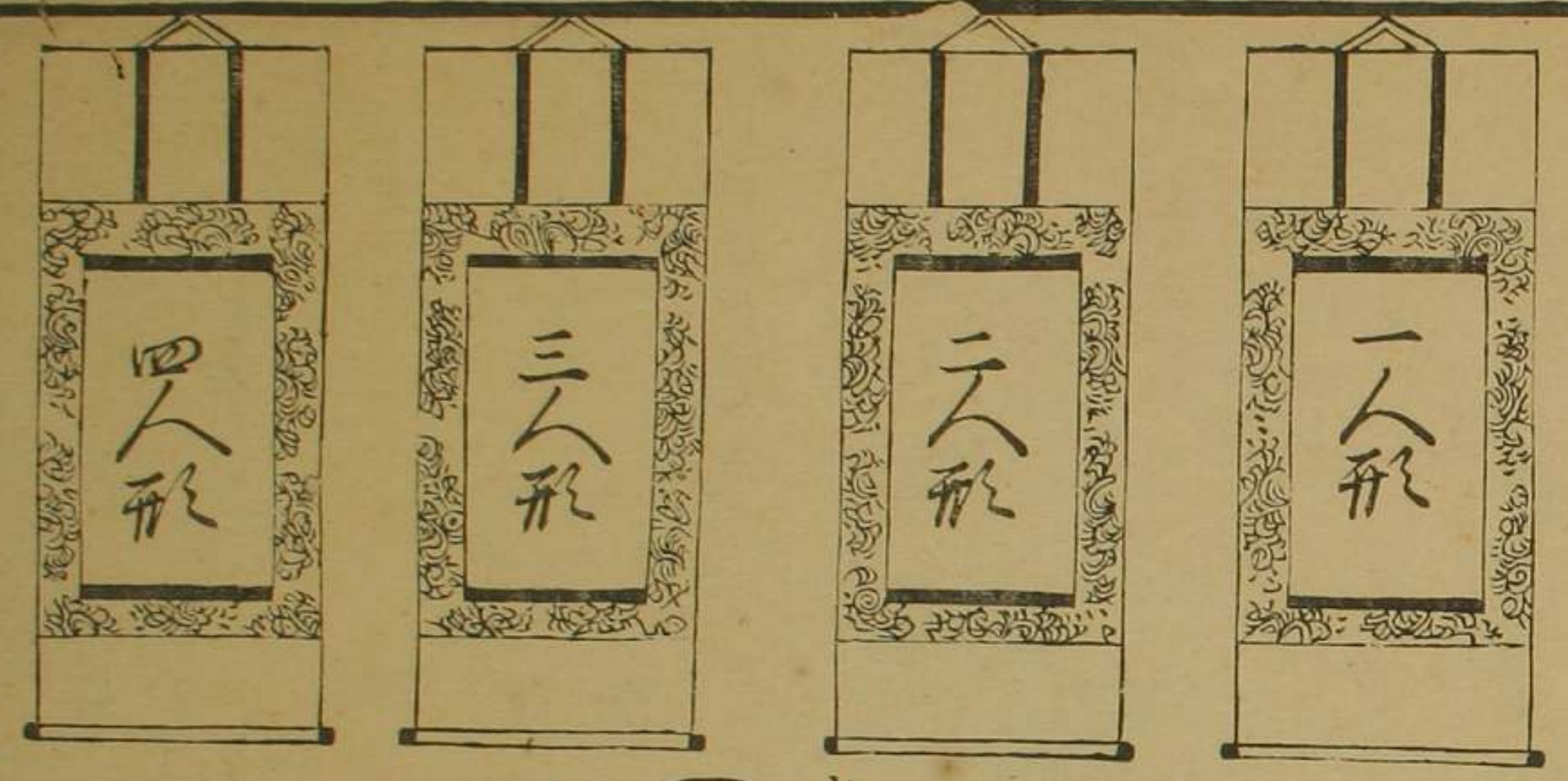
角香炉の灰入れとあそび



一四方より香爐とく
のちくく中よりあ
方へあそび

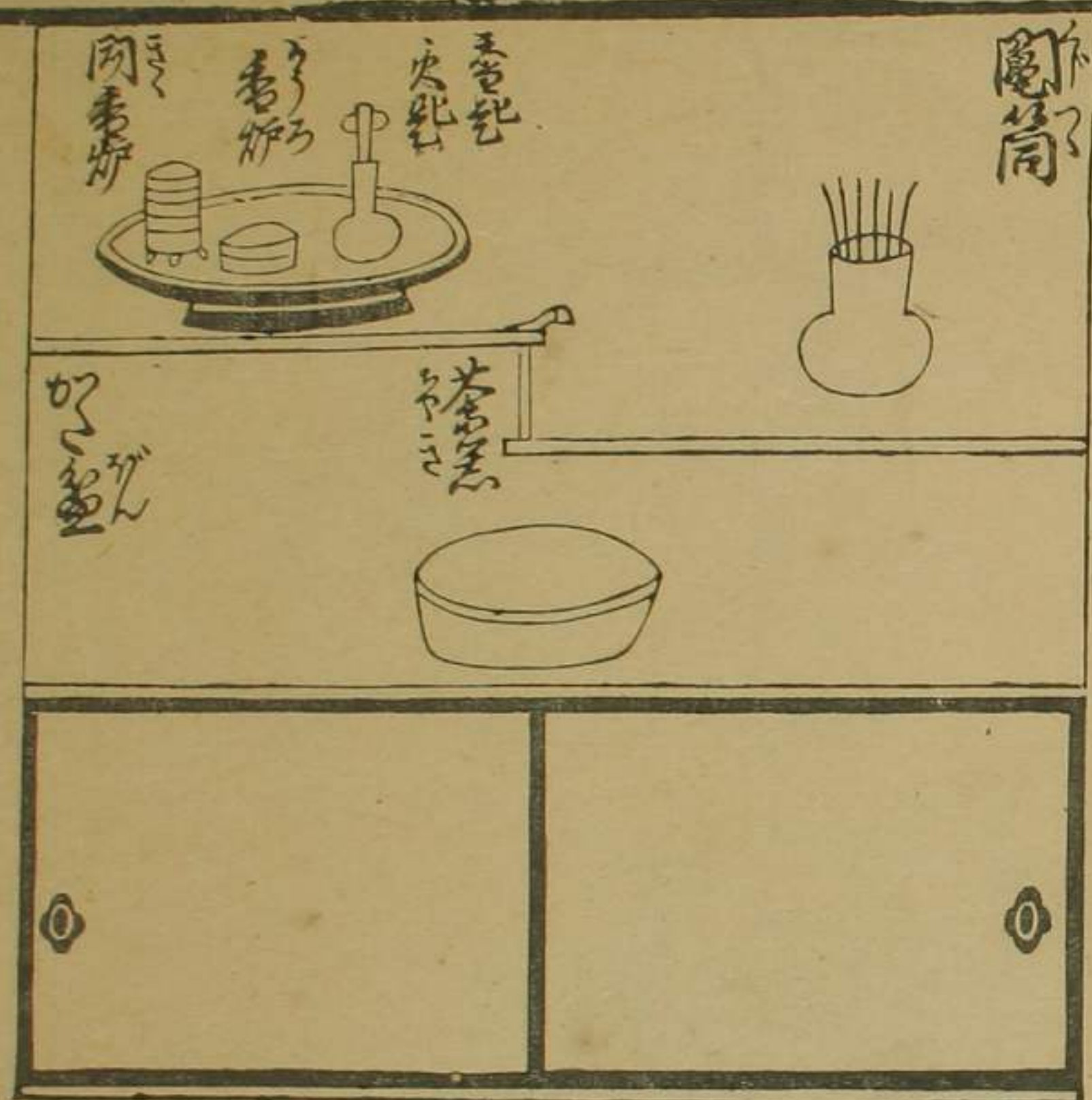


けふ六角八角の香炉もけふのあそび



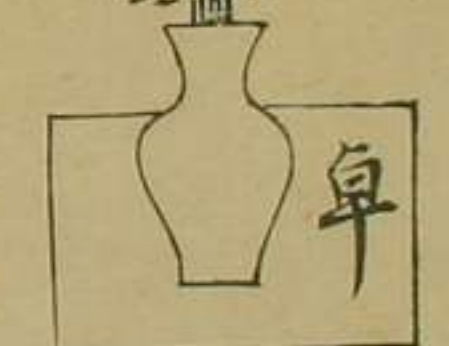
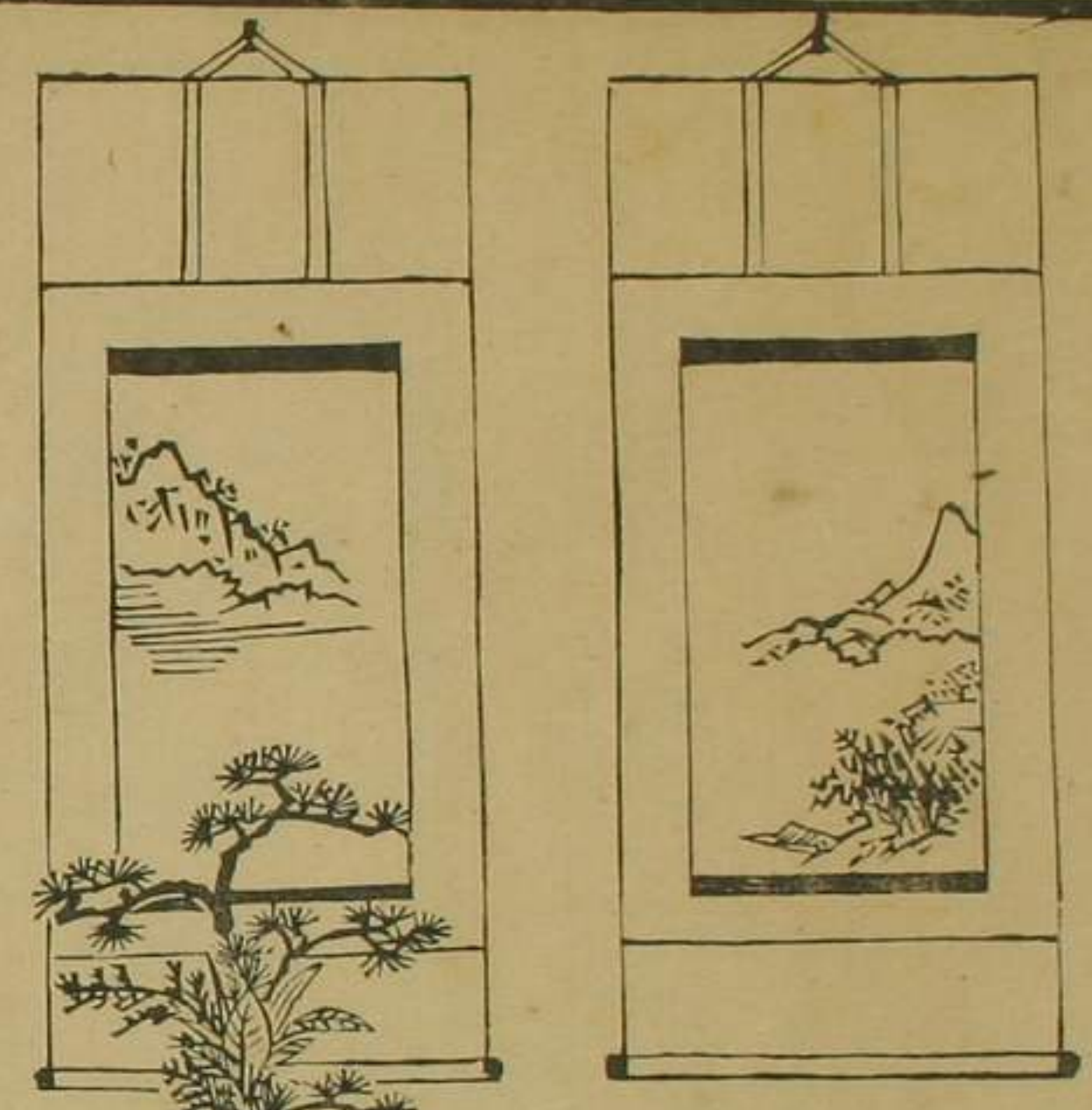
あ版一對
花瓶
花瓶
花瓶
花瓶

四幅一對の時
ハ三具とあそび
あ版一對は
瓶とあそび
又瓶とあそび
あ版一對は
大いなる香爐より
あ版一對は
あ版一對は
あ版一對は
あ版一對は



沖對面たいめん乃
 西は西は東乃
 之西乃東乃
 乃西乃東乃
 乃西乃東乃
 乃西乃東乃

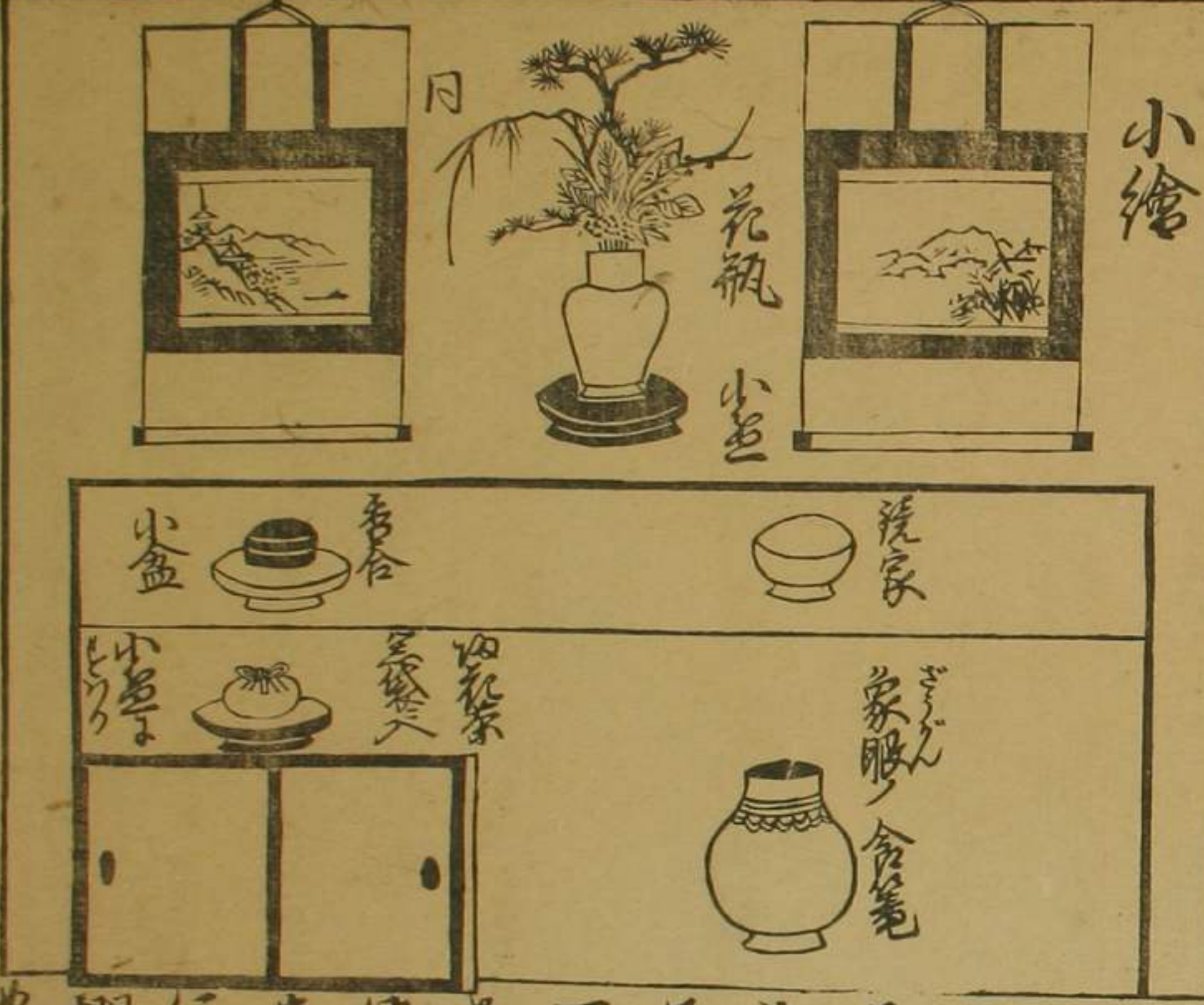
+



卓卓の卓乃卓の
 乃卓乃卓乃卓乃
 乃卓乃卓乃卓乃
 乃卓乃卓乃卓乃
 乃卓乃卓乃卓乃
 乃卓乃卓乃卓乃

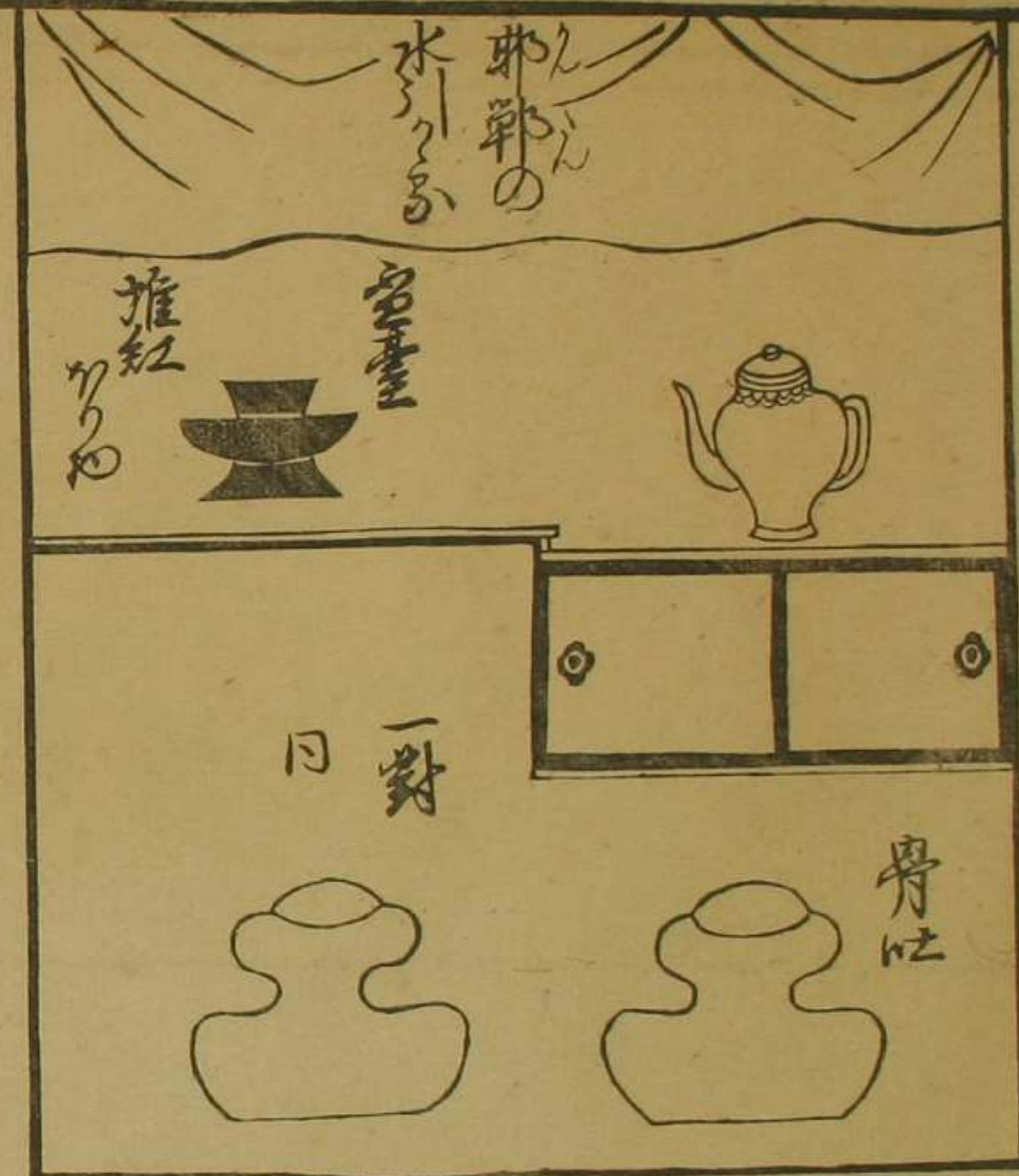
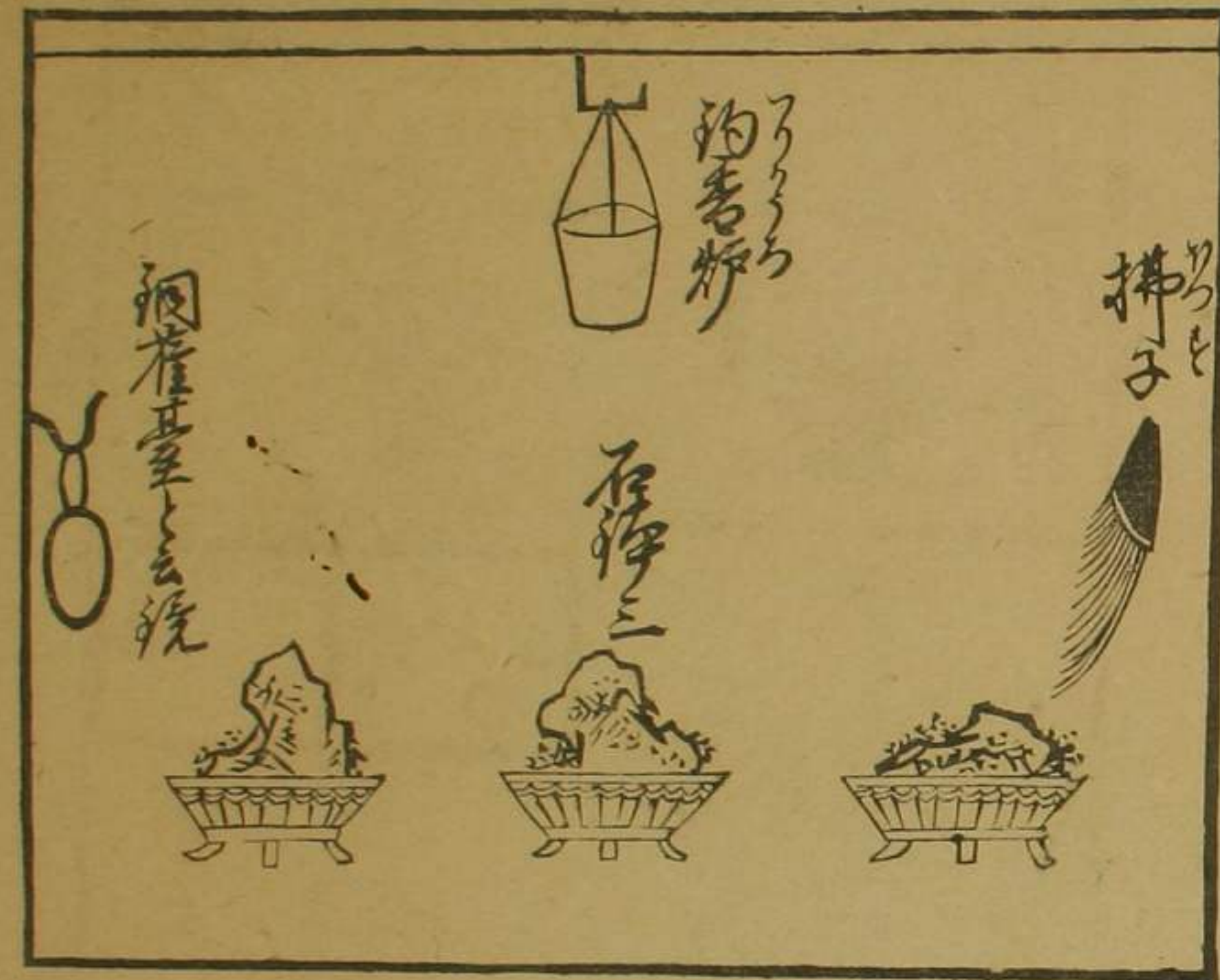
一 東山教は三和九間 活版の北東二層押板沖
 後三具足揃花籠以下きののしと上は風流を
 うの押板乃前より中央北東の推板と
 上は書屏 胡洞 前よりあり花の葉窓二と
 出待七宝瓶とろく其のまじりて日火着も七
 宝瓶瑞三月をまじりてと
 一 八景乃八幅四幅一對乃横絵在馬の
 ありと
 一 西の六間は在馬の夏つり由發子
 繪馬東より二幅つりけらる
 一 東の物乃同南より北東の
 華院より活版のこく同東方
 乃小登は乃とと夏つり
 四幅一對つりあり也

同中つりつりの西より一層に
 是種也まじり小登より二幅
 小繪

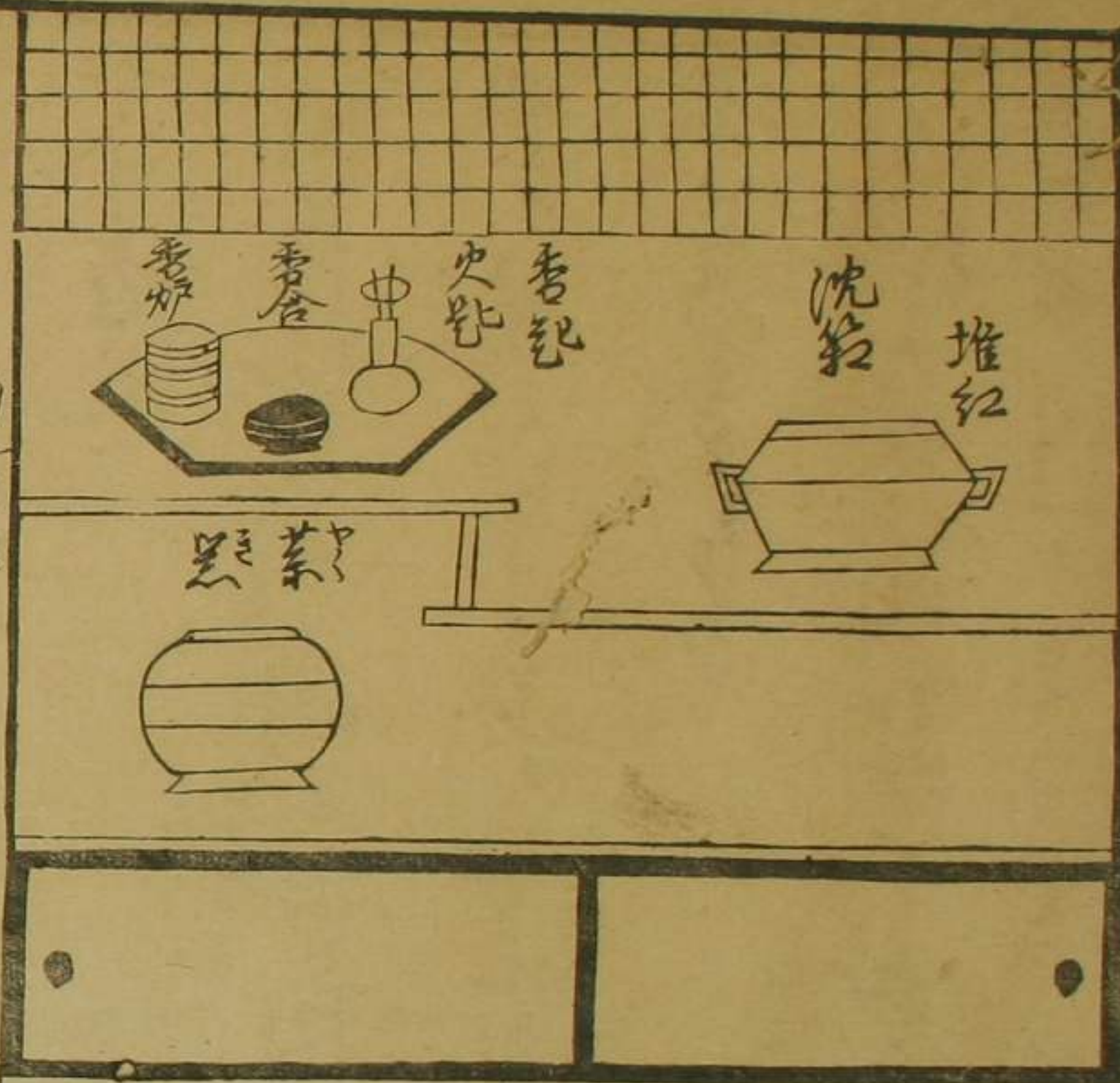


也は桐の
 乃めは西障子
 の法秋の系
 花よりせつと
 乃り同水の
 石山の乃る東
 一層中北東
 ありと上は押板
 四法三具足
 きののしと東
 に居中北東
 欄わりの窓の
 乃山は障子
 乃まじりて
 乃まじりて

石山障子を
 中の山障子ありと上は押板は繪三具足きののしと東
 乃まじりて



御遠棚置物



同じ面の百納戸を二間中かき障子二まいり
障子とゆゑては其の紋飾よそよそしに
此障子の帳つくりありしは向本の中
棚の上の油のたきあり二枚障子奥の板まて
とられたは油のたきの下に障子の縁はるまや
うの花を金結しその水島あり

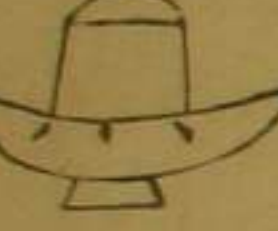
一押板のより糸の束分二つを打てるる
押板あるより一尺七寸と打てるる
一本のたよりと板と並べし唐箱かき

よもぎ

一同るに方書し一團香が向ふは火を
置いて備ふましとありしと真足と
ふるるありあり

一透棚よむに團香がよもぎあり

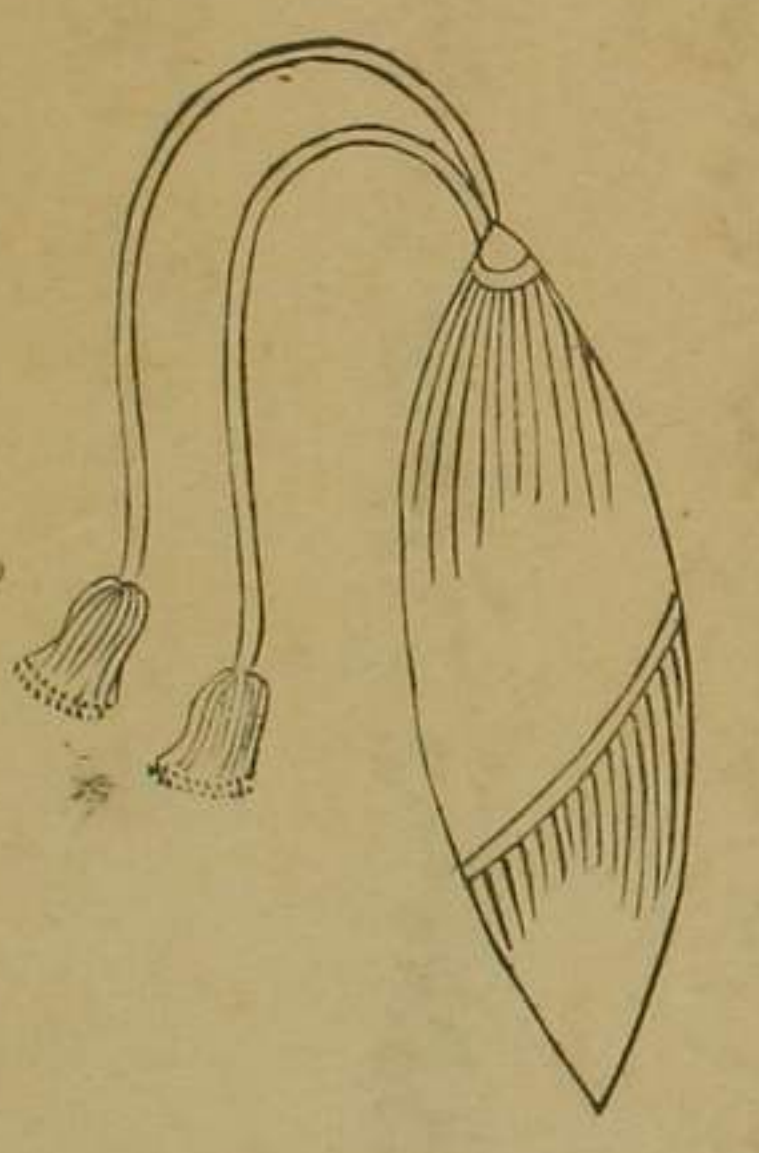
香炉



名うゑとてんくろりてか
のしとてんくろり

一 かり物とていふ曲いまの甚ふくは
 と縁結とていふ曲いまの甚ふくは
 一 中央卓とていふ曲いまの甚ふくは
 香籠とていふ曲いまの甚ふくは
 一 同左番二幅一射の結と掛入押板と
 あと二幅一射もうけよ
 一 巾物のゆか袴の巻はらもな甚く結と
 大略こぢくは結とていふ曲いまの甚ふくは
 一本とていふ曲いまの甚ふくは

かりりく



一 かりりくとていふ曲いまの甚ふくは

一 東山殿にゆかこの物とせられり物
 うんうんとていふ曲いまの甚ふくは
 一 巾物のまじり

右ハ一巻者 義植公之
御為ニ書後江言作相後
交々云々地見作於上
口傳然ニ相傳中ハ云也

大永三子正月日 鑑若真相

江戸日本橋北貳
町目本屋平兵衛

